

「フィリピン研修派遣参加報告書」

京都大学文学部4年 (氏名) 今岡 哲哉

① 学習成果

フィリピン研修では、フィリピンから日本に移住する人々と、その関係者・支援団体を集中的に訪問した。具体的には、フィリピン政府在外フィリピン人委員会、日本語学校、JFC(Japanese-Filipino Children)の母子支援団体などである。

本研修で得た最大の成果は、これまで主に京都にいるJFCへの学習支援を通じて触れてきた日比間の国際移動現象を、フィリピンに行くことでより多面的に把握できるようになったことである。つまり、これから結婚して実際に日本に移住するフィリピン人女性やフィリピンに帰国した母子などへのインタビュー、あるいは移民送出プロセスに関わる日本人学校・フィリピン政府在外委員会への訪問を通じて、日本とフィリピンの間の移住をより包括的に把握することができたということである。

私に一番強い印象を残したのは、日本人と結婚して移住するフィリピン人女性たちとの面会だった。インタビューした方々に共通して見受けられたのは、英語やタガログ語を中心的に話すフィリピン人女性と、日本語しか話せない場合の多い日本人男性との間では、十分な意思疎通できる言語が存在しないことである。それにも関わらず、女性たちは「幸せ」や「愛」を迷いなく口にすることが多かった。彼女たちが出会ったばかりの私に必ずしも本心を打ち明けられるわけではないのは当然だとしても、この体験は私を思考の迷路に誘った。お互いを伝える言語が介在しない人間関係に、幸福や恋愛は存在するのだろうか？もちろん、言葉が通じたところで人間が分かり合えるわけではないのは、言うまでもないのだが。

② 海外での経験

私は高校生の頃にアメリカへ交換留学した経験がある。他にも大学入学後に香港やフランスに語学留学している。近年は中国に関心を持ち、一年に三、四回の頻度で渡航している。しかし、今回のフィリピン研修が初めての東南アジア渡航だった。外は蒸し暑く、中は冷房のため冬のように冷えているフィリピンで、病弱な私はすっかり体調を崩してしまった。帰国後も風邪がなかなか治らなかった。

③ プログラム

プログラムの概要は①「学習成果」の冒頭で述べた通りである。付け加えることがあるとすれば、マニラの主要な観光地であるマラカニアン宮殿やイントラムロスに訪問したことである。

④ 進路への影響

私はもともと確たる進路に向かって生きているので、この研修が進路に決定的な影響を及ぼしたとはいえない。しかし、この研修を通じて、私は自分の進路への決意をさらに強固なものにできたといえる。私は大学院に進み、将来は移民に携わる仕事をしたいと考えている。安里先生がフィリピンで膨大なネットワークを築き、様々な人々から信頼を勝ち得ている姿を見て、私もいつかはかくありたいと感じた。

“The Age of Migration”という移民研究で著名な本に、次のような一節がある。”As a key dynamic within globalization, migration is an intrinsic part of broader economic and social change, and is contributing to a fundamental transformation of the international political order.”これから日本とフィリピンの間の移住現象がどのように変わってゆくか、あるいは日本とフィリピンをどのように変えてゆくかを、私は見届けてゆきたい。